

(1) 中筋小学校

学 校 長 永野 恵理香
校内研究代表者 宮川 史佳

1. 研究主題

「主体的に学習に向かい、豊かに表現することができる児童の育成」
～書く力を高める指導法の研究を通して～

2. 主題設定の理由

本校は、令和3年度から令和5年度までの3年間、算数科を中心とした授業改善とICTの効果的な活用について研究してきた。その成果としてICTの活用が問題を解決するための手段へと変化していること、目的意識をもたせる課題設定の工夫ができつつあること等が挙げられる。また、児童の学力の定着状況としては、各種学力調査の結果において国語科より算数科の方が全国平均より高い結果となっている。このことから、算数科においては、これまでの研究の成果が結果として表れてきていることが分かる。その一方で、国語科においては、「自分の考えを既習の漢字や語句を使って書き表すこと」「語彙力が乏しい」「書くことへの抵抗感がある」等の課題が見られた。今後は、国語科を中心に研究を進める必要があると全体で確認した。

以上のことから、今年度は、研究主題を「主体的に学習に向かい、豊かに表現することができる児童の育成～書く力を高める指導法の研究を通して～」とした。そこから、目指す児童の姿を「多くの語句や漢字を使い、書き表し方を工夫しながら自分の考えを表現できる児童」とし、研究を進めていく。まずは、学力の根底にある語彙力の育成のため、漢字指導・音読指導・日記指導を行っていき、論理的思考力（考える力）の素地を養う。授業の中では、書く原動力となる相手意識・目的意識を明確にした単元ゴール設定の工夫をし、単元のねらいを達成するための単元構想図を作成していく。そして、国語科の「書くこと」の学習過程にICTを効果的に位置づけ、子どもたち一人一人のよりよい学びを目指していく。

(研究仮説)

- ①国語科の学習において、学力の根幹となる語彙力の育成のために基礎的な内容の共通理解を図ること
で、多くの語彙や漢字を使い、書き表し方を工夫しながら自分の考えを表現できるようになるだろう。
- ②書く原動力となる相手意識・目的意識を明確にした単元ゴールを設定し、単元のねらいを達成するた
めの単元計画を作成することで、見通しをもち、主体的に学習に取り組むようになるだろう。
- ③基本的な生活習慣の確立、命や人権を大切にしたい学級経営による仲間づくり＜横糸＞、豊かな心や人
間性を育む道徳教育・全校活動等を通じた仲間づくり＜縦糸＞、将来を見据えた自学自習の習慣化（予
習）等が、学びを支える基盤（生活や心の安定など）づくりにつながっていくだろう。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究組織

【学力向上部】

- ・中筋スタンダード ・資質・能力ベースの授業改善 ・ICTの効果的活用 ・チャレンジタイム
- ・漢字指導、音読指導、日記指導の充実 ・ノート指導の統一 ・単元計画の作成
- ・講師招聘による授業改善 ・自学自習の習慣化 ・各種学力調査の分析と活用

【生活支援部】

- ・基本的生活習慣の確立 ・心づくり ・道徳的実践の指導 ・人権教育の充実（特別支援教育）
- ・体力づくり

(2) 研究の方法

- ・毎月3回、基本的に水曜日を校内研修の日とする。講師の都合で変更する場合もある。
- ・学力向上部、生活支援部の部会を定期的にもつ。

(3) 具体的な取組

〈1〉授業改善

① 学力を支える基盤（漢字・音読・日記・ノート指導の統一）

漢字指導の統一

（取組方法）・全体指導をした後、漢字ドリルの表紙の裏に「漢字練習の仕方」の紙を貼り、各自で取り組ませる。→自分のペースで取り組ませることで、計画性・自主性を養う。

・丁寧な字で書かせる。→物事に落ち着いてじっくり取り組む姿勢を養う。

・3学期は習熟を図るため、漢字復習プリントに取り組ませ、正答率80%を目指す。

② ④ ⑤ ① かんじれんしゅうのしかた

1	おんどく3かい(よみ、ぶんしょう)
2	かきじゅんえんぴつなぞり
3	そらがき2かい
4	はみでないように おおきなかんじをえんぴつなぞり1かい
5	ていねいに4マスかく
6	1ページできたら せんせいにみせる

② ④ ⑤ ① 漢字練習の仕方

1	音読3回(読み、例文、熟語)
2	書き順えんぴつなぞり
3	空書き2回
4	はみでないように大きな漢字をえんぴつなぞり1回
5	ていねいに4マス書く
6	1ページできたら先生に見せる

【新出漢字の学習手順】

- ① 音読三回（読み、例文、熟語）
- ② 書き順の声を出しながら「1、1・2、1・2・3…」と一画目に戻りながら鉛筆なぞり1回
- ③ 書き順の声を出しながら、空書き2回
- ④ 「大きい漢字」を声を出しながら鉛筆なぞり1回（1ミリもはみ出ないように）
- ⑤ 丁寧に鉛筆で全てのマスをうめる。
- ⑥ 1ページできたら教師に見せて点検してもらう。

音読指導の統一

常に音読の三原則を意識

おんどく げんそく
～音読の三原則～

①ハキハキ

②すらすら

③ただ正しく

常に「音読の三原則」を意識して指導を行う。授業の始めには、必ず「〇分間音読」に取り組む。

読みのバリエーションの活用

R6 楽しみながら音読しよう！

追い読み	丸読み	マルテン読み	一気読み
日直や先生のあとに続けて読む。	「。」で次の人に交代する。	「。」や「。」で読む人が交代する。「はい！」と合図する。	「。」や「。」まで一気に読み続ける。つまった交代。
かんぺき読み	向かい合い読み	せなか合わせ読み	漢字・ひらがな・カタカナ読み
音読の三原則「ハキハキ、すらすら、正しく」ができていなかったら、次の人にバトンタッチ！	前に出て読む人とそでない人に分かれて交互に音読。	背中合わせになって一文ごとに交互に読む。（ペアで）	「漢字」と「ひらがな・カタカナ」に分けて交互に読む。
回転読み	感情読み	1分間高速読み	音読対決
1回読むたびに前、うか、後ろ、運動場と向きを変える。	「うれしそうに」「おこったように」等、色々な読み方で音読。	1分間でどれだけ読めたか確認する。（印をつける）	一段落まちがえす読めたら1ポイント（ペアで）
たけのこ読み	丸10こ読み	聞き読み	指名なし読み
自分が読みたい文を決める。その文がきたら立って読む。	最初から最後まで読んだら赤えんぴつで丸を1つぬる。	一人でくつろぎながら読むか考える。（一文か、二文、三文のいずれかを自分でえらぶ。）	教師の指名なしで1人立って音読し、集めていく。

楽しみながら音読をできるように、教員向けに「音読のバリエーション」を配布し、授業で活用してもらう。

保護者への呼びかけ

R6 中筋小 毎日の音読の宿題を大切に！

音読のここが「すごい！」

効果①	効果②	効果③	効果④
記憶力、読解力、読解力、集中力の向上、つまり、学力の向上！	成長が分かりやすく、達成感を得やすい。自信がつく！	声に出して読むことで脳内回路が活性化し、思考も伸びてくる。	読書が好きになる！

音読の三原則（音読のチェックポイント）

「ハキハキ」 「すらすら」 「正しく」

- 「ハキハキ」：口をしっかりと開けて大きな声で読む。姿勢を正して読む。
- 「すらすら」：句読点まで一息で読む。つまずかずに読む。なめらかに、少しスピードを上げて読む。
- 「正しく」：漢字や言葉を読み違えずに読む。

親子で楽しく！音読活動のアレンジ

追い読み	丸読み	マルテン読み
お家の人の後に続けて読む。	「。」でお家の人と交代する。	「。」や「。」でお家の人と交代する。
かんぺき読み	1分間高速読み	音読対決
音読の三原則「ハキハキ、すらすら、正しく」ができていなかったら、その文章からもう一回読む。	1分間でどれだけ読めたか確認し、教科書に印をつける。	一段落まちがえす読めたら1ポイント（お家の人と交互に）

日々の見届けをよろしくをお願いします！

学級懇談で音読の大切さについて話をし、家庭と連携して取り組んでいく。

日記指導の統一

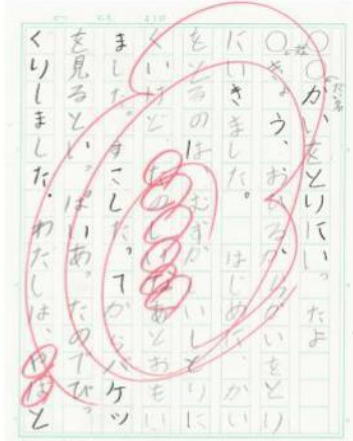
(取組方法)・週末は必ず日記の宿題を出し、担任がチェックをして、良い書き方を紹介する。

- ・1学期は書く量を重視して取り組み、2学期からは質を重視して取り組む。
- ・日付けを書かせる。

(児童の変容)

- ・4月に比べ、書く量が増えた。
- ・教科書の表現を真似して書く児童が増えた。
- ・気持ちを表す言葉の表現の幅が広がった。

4月

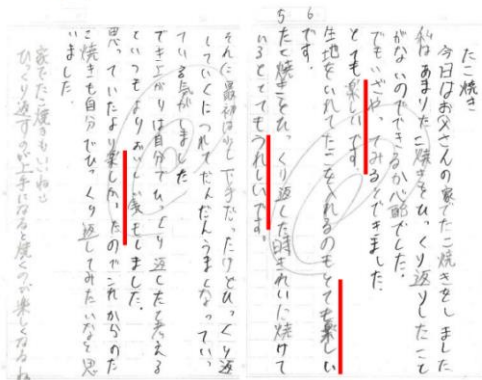


11月

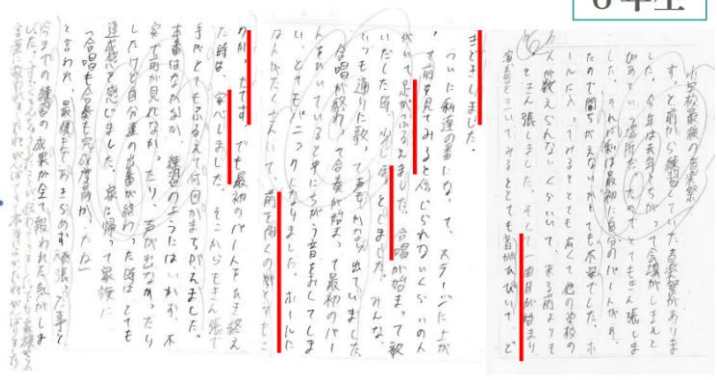


2年生

4月



12月



6年生

ノート指導の統一

(取組方法)・国語科では、日付、めあて、とも学び、まとめ(ない場合もある)はノートに残す。

- ・ひとり学びやふりかえりは、必ずしもノートに書かなければならない訳ではない。

(ICT活用のため)

- ・間違いは消さず、見え消しをする。(主にプリント、テスト、問題集で)
- ・次の時間は、1行空けてノートを書く。

(板書・ノートのつくり方～基本国語バージョン～)

ふ	ま	と	ひ	見	め	夕	単元ゴール
ふりかえり(パソコンで行う場合も)	まとめ(赤枠) ※指内容によらない場合もある	とも学び(友達の考え) ※授業のポイントや話合った等は必ずノートに書く。	ひとり学び(パソコンで行う場合も)	見直し(パソコンで行う場合も)	めあて(青枠)	単元名	四月八日

② 新学習指導要領にもとづく資質・能力ベースの授業づくり（国語科）

- ・国語科の研究授業（各担任1回）を1・2学期中に実施する。（「書くこと」の領域に絞る）
- ・研究主題に沿って教材を分析し、必然性をもたせた単元ゴールの設定・単元計画の作成を行う。
- ・ICTを活用する場面を単元計画に位置づける。
- ・教材研究はブロック研修とし、講師招聘のもと、事後研究を行う。
- ・研究授業での学びを日々の授業や次の研究授業へ生かす。（学びの連続性）
- ・協議内容や助言、児童・教師別のチェックシート結果等を実践の振り返りとして蓄積する。
- ・研究授業は視点を明確にして参観・協議し、PDCAサイクルで授業改善に取り組む。

（協議の視点）

- ① 単元ゴール及び単元計画が単元で身に付けたい力を育成するものとなっていたか。
- ② 本時のねらいを達成するための手立ては有効であったか。

（研究授業の様子）



（事後研究会をロイロノートで行う）

**共有ノートに全てが
まとめられているため
振り返りやすい。**

（事後研究会で全教員で共通して取り組むことを決める）→日々の授業で取り組んでいく。

- ① 単元ゴールの工夫で目的をもった学習を行う。
- ② どんなところに気を付けて書いたのかを問い、ついた力を児童が自覚するふりかえりを行う。
- ③ 具体的なゴールイメージを示し、身に付けるべき力に気づかせる。

実践の振り返り

10月2日(水)1年 国語科研究授業『はっけんたよ』

◇研究協議より

2つの協議の視点に沿って、成果と課題・解決策を共有ノートに書き出し、協議しました。

【協議の視点】

- ① 単元ゴール及び単元計画が単元に身に付けたい力を育成するものとなっているか。
- ② 本時のねらい達成のための手立は有効であったか。

A	視点①	視点②
成果 (青)	単元の目標や単元計画が単元に身に付けたい力を育成するものになっていたか。 メモの書き方を低学年から系統的に取り扱うことができた。 物の様子をよく見て、メモを書くことで、物の特徴が伝わるように書くことができました。 クイズにして伝えることができたと、わくわくしながら書くことができました。その後の発表もスムーズに行っていました。	本時のねらいを達成するための手立は有効であったか。 児童メモに「～と書いてみる」という言葉を入れて、実際に書いてみるという活動を行いました。 自分の考えを伝えようとする意識が高まりました。 「相手に伝わりやすいように書く」という意識が芽生えました。 ペアで話し合いながら、自分の考えを伝えようとする意識が高まりました。 成功例を達成できた分だけ、次の学習へ活かしながら文章の書き方を定着させていく。
課題点 (赤)		
解決策 (緑)		

B	視点①	視点②
成果 (青)	単元ゴール及び単元計画が単元に身に付けたい力を育成するものになっていたか。 ワークシートに記入した手立を参考にすることができた。 みんなで作成したメモの書き方を参考にすることができた。 クイズにするために、「様子が伝わるように」書くことができた。やりとりを通してゴールであった。	本時のねらいを達成するための手立は有効であったか。 自分の考えを伝えようとする意識が高まりました。 「相手に伝わりやすいように書く」という意識が芽生えました。 ペアで話し合いながら、自分の考えを伝えようとする意識が高まりました。 成功例を達成できた分だけ、次の学習へ活かしながら文章の書き方を定着させていく。
課題点 (赤)		
解決策 (緑)		

◇講師(西部教育事務所 指導主事)からの指導・助言

◆協議の視点に沿った助言

- ・単元ゴールは、「書いて伝えよう」が良いが、友達やお客の人に伝えられたではなく、物の様子をよく見て文章を書いたかを評価する。
- ・「中」と「おわり」の内容が結びついているかに注目すること大切。採録した感想は結びつかない。
- ・書いた文章を伝え合う際、読み合うだけでなく、文章を見せ合うことよい。また、内容についてだけ感想を伝えるのではなく、書き方にも目が行くように指導する。
- ・児童のねらい違いが出ていたので、それを全体に広げてもらった。(メモを基に、どうすれば文章を書けるかな?)

◆「学びに熱中する子供(主体的な学び:小学校国語2)」の講話より

- ◆「書くこと」の学習過程のどこに単元計画が位置しているのか把握することが大切。
- ◆言葉による見方・書え方を働かせるためには、どのようなところに気を付けて文章を書いたのかを問う必要がある。どんな力がついたのかを児童自身が自覚できる振り返りを仕組む。
- ◆気持ちを高揚させるとともに、全員の児童に応じる。

◇授業者より(今後の授業改善に向けて)

- ・単元身に付けさせたい力を明確にし、ゴールイメージを持たせながら授業を進めていく。
- ・授業の充実を図るために、話したり聞いたりする場面を設定すると共に、自分の考えを、根拠のもとに話すことを意識させていく。

◇授業実践チェックシートの結果(授業者・参観者、児童)

Left Chart (Teachers/Observers):
Lesson Objectives: (4.0)
Learning Process: (3.8)
Student Engagement: (3.5)
Teacher's Role: (3.8)
Classroom Management: (3.8)

Right Chart (Students):
Lesson Objectives: (4.0)
Learning Process: (4.0)
Student Engagement: (4.0)
Teacher's Role: (4.0)
Classroom Management: (4.0)

◇板書・活動の様子

【共通して取り組むこと】

- ・どんなところにも気を付けて書いたのかを問い、つけた力を児童が自覚する振り返りを行う。
- ・具体的なゴールイメージを示す。

高知市教育委員会 片岡忠三先生に教えていただいた方法を用い、3学期の「書くこと」の単元で「子どもにまねさせたい10の観点」を見つけ、指導に役立てる。

① 題名に対する答えは目を書く。(経験論で述べ)

(1) 「心の声スピーカー」は必要か

5年1組 池田 香希

わたしは、「心の声スピーカー」は必要だと思っています。

その理由の一つ目は、(1)「心の声スピーカー」があれば、相手の気持ちをはかることができるからだとす。例えば、……(中略)……ということも起こらなくなてしまう。

二つ目としては、本当の気持ちをうまく表現できない人のことが理解できるようになるからとす。具体的には、赤ちゃんと小さな子どもは、言葉で気持ちをうまく伝えられないため、(1)「心の声スピーカー」が役に立つと思います。

三つ目は、相手のことを心から思いやることができると思うからとす。なかには、相手の気持ちを想像しなくなってしまいうから(1)「心の声スピーカー」は不要だと思う人もいるでしょう。(しかし、相手の気持ちがきちんと分かるからこそ、本当の意味で相手の立場に立って物事を考えられるのだと思います)

相手の気持ちをきちんと理解できる(1)「心の声スピーカー」は、必ず実現してほしい道具の一つだと思います。

② 反対意見の理由の中に入る。

③ 全ての段落で「心の声スピーカー」という言葉を使っている。

④ 3つの構成で書く。

⑤ 反対意見の予想に「対する対応を書く。」
↓
⑥ 説得力が増す

⑦ 予想される時に使った言葉
(例)「～です」
⑧ 反対意見の予想を書く。

池田さんが書いた意見文

① 題は太字にする

国 文 第 3 期

1 年生と私

6 年 1 期 中 大 河

② ふたりの中心
話題は何か
はかに記す

私は、1 年生をおむかえ會に、二つの思いがある。一つは 1 年生のど
きの思いの思い。もう一つは 6 年生のどきの思いの思い。私は、この二
つの思いから、人と関わるときに大切なことを学ぶ。

③ どこを
具体的に
分かる
説明する

小学校に入學してから、1 年生をおむかえ會があった。その会で上級生
と会ふことになる。私はとても不安になった。會の日、入場
する前、私は、こわくて泣き出した。入場したとき、私の手を握り、
そんな話を聞くと、とてにいたる 6 年生が手を握りかけてくれた。そのやさしい
えがけに安心した私は、気がつくといふお兄さんとお兄さんとお兄さん、話して
いるうちに、小学校で楽しい思い出なんだと思えた。

④ 過去をふりかえり
述べる言い方

それから 2 年がたち、私は 3 年生になった。私は、今度は自分がやさしくお
かえてあげようと思ひだした。

⑤ 中学生になって
からの目標や抱負

1 年生の教室に行くとき、入場の時間がかかっているのに、机のかけが
終わらず、あわてている子がいた。助けてあげないかと、思つて手をの
ばしたとき、その子の大きな声がひびいた。
「ばく、もう 1 年生だから、一人でできるよ。」
その子の言葉は、自分の力でできるんだという自信がはつきりとおぼ
れた。私は嬉しかった。1 年生は小さいから手伝ってあげるのがあたりま
で、いつの日にか決めたつてこれに感謝したい。

⑥ どんな字が
あふ
か、明確に書く。

⑦ 会話を
使った
くわしく
書く。

⑧ あつた
てが
う

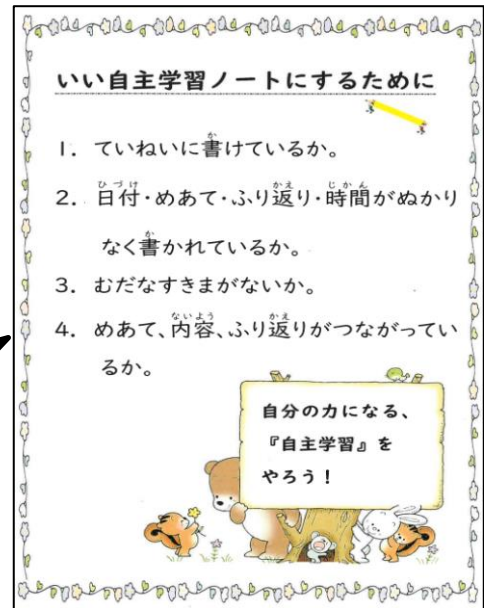
⑨ べつたい。
おのれに
まの述べ

⑩ べつたい。べつたい。
大木表現の工夫

③ 自学自習の習慣化

- ・ 自主学習の手引きを作成し、活用する。
- ・ ぐるぐるノートを実施する。
(横まわり：学級 縦まわり：縦割り班)
- ・ 友達のノートにコメントを書き合う。
- ・ 参観日に合わせてノートの展示を行う。

良い自主学習ノートにするための4つのポイントを示し、児童朝会や学級で確認しながら取り組ませる。



④ 資質・能力を支える取組

- ・ 帯タイム (チャレンジタイム)
月：タイピング 火：算数 (活用力をつける問題等) 木：国語 (作文を書く際の基礎問題等)
- ・ 朝の準備：PCに触れる時間の確保 (きもちメーター)
- ・ すきま時間を活用したタイピング練習 (「タイピング選手権」への応募)

〈2〉学びを支える土台づくり

① 生活づくり

- ・ 基本的な生活習慣の確立のため「生活がんばり調べ」及び「アウトメディアにチャレンジ」を行う。

② 体力づくり

- ・ 朝マラソン (4分間走、雨天時はラジオ体操)、外遊びを奨励し体力をつける。

③ 関わりづくり

- ・ 縦割り班活動を中心に行う。(清掃活動、あいさつ運動など)
- ・ 全校あそび (毎週水曜日) を体育委員会が中心となっていく。
- ・ 『ふわふわの木』を2学期から実施し、ふわふわ言葉を意識させる。
- ・ 3学期から児童会が中心となり、毎週木曜日に仲間づくりのレクを行う。

④ 人権教育の充実 (特別支援教育)

- ・ からふる朝会を6回実施し、人権に関わる内容に触れ、理解を深めていく。



「からふる朝会」



「ふわふわの木」

4. 今年度の成果と課題 （○…授業改善について □…学びを支える土台づくりについて）

<成果>

- 漢字や音読、日記等の学力を支える基盤となる力を校内で統一したことで、指導・評価するポイントが明確になり、変容を見取りやすくなった。
- 学校評価アンケート「授業研究での共通理解を日々の授業で実践しているか」、「研究成果の授業への転移」、「授業力向上の実感」いずれも 100%であった。チームとして研究や実践に取り組んでいる。
- 研究授業を受け、全教員で共通して取り組むことを決めて、日頃の授業改善に生かしていったことで、研究授業での学びをつなげていくことができた。
- 主体的・意欲的に学習に取り組めるようにするための授業づくりができ始めた。児童が「書いてみたい」「伝えたい」と思えるような単元ゴールの工夫や単元構想図の作成により、4月に比べて、前向きに学習に取り組む姿勢が見られるようになった。
- 身に付けさせたい力を明確にした上で、ゴールイメージを児童と共有し、毎時間のめあての達成が単元ゴールの達成につながっていくことを意識して授業づくりを行うことができた。
- 家庭と連携し、「生活がんばり調べ」及び「アウトメディアにチャレンジ」を行うことで、児童の生活リズムに良い変容が見られた。
- 昨年度から始めた「からふる朝会」は、多様性を尊重する大切さや友達との関わり方を考える良い活動となっており、子ども達の心の成長につながっている。

<課題及び今後の方向性>

- 「わかる」と「できる」を行き来する資質・能力ベースの授業づくりを目指していく。単元の中で「わかる」と「できる」を行き来するのはもちろん、1時間の授業の中でもわかったことを生かす場面を作れるように意識し、「わかる」と「できる」をつなげた単元構想の工夫を図っていく。
- 今年度の研究は、言葉による見方・考え方を働かせた授業づくりにまで至っていない。児童が、どんな力を発揮させて考えているのかを自覚させたり、着目させたい点に気づかせる発問を研究したりする必要がある。
- 今後の完全複式化に向け、子どもに任せるためのしかけについても研究する必要がある。複式学級で国語の授業を成立するために、教師はどのような働きかけをしていかなければいけないのかを考えていく。
- 事前研究会の進め方を検討していく必要がある。指導案検討から参観者の教員が関わり、授業者の困り感を解決できるような検討会にしていけるように改善を図っていく。
- 自分から進んで人と関わったり、行動したりすることに弱さがみられるため、引き続き友達との関わり方を身に付けさせるための活動を考えていく。
- 自己肯定感を高める取組をさらに進めていく。

